

1 自分をみがいて

(1) 節度、節制を心がけて

P.10~17
1-(1)

生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。

1 この内容項目のページの特徴

高学年の段階においては、基本的な生活習慣を十分身に付けることが期待される。そこで、そのような生活習慣は、日々の生活を維持していく上で必要不可欠なものであることへの理解を深め、児童が自分の生活を振り返り、改善すべき点などについて見直していけるよう、継続的に指導することが求められる。

本内容項目のページは、節度ある生活について、健康や安全、規則正しい生活の観点から生活習慣の大切さを考え、自分の生活について振り返るなどして、節度を守り、節制に心掛ける態度を養うことができるようになっている。

2 活用のポイント

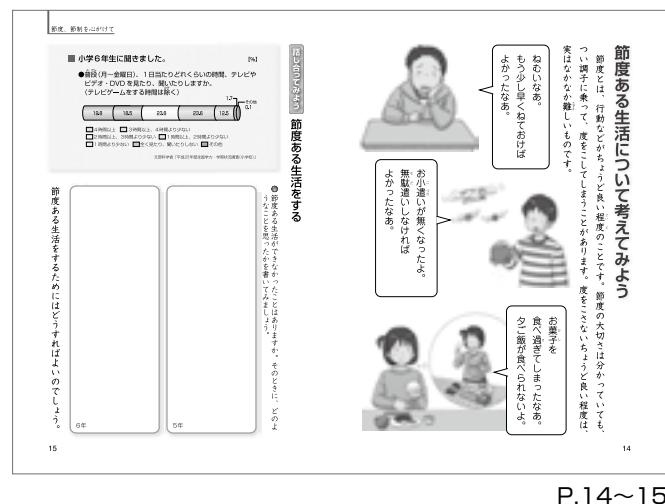
高学年の段階においても、健康や安全に気を付けること、物や金銭を大切にすること、身の回りを整えることなど、場面ごとに具体的に自分の生活を振り返って考える必要がある。児童が、自分を振り返ることを通して、基本的な生活習慣を自ら身に付けていくことができるように、本内容項目のページを折に触れて活用し、継続的に指導していくことが大切である。

3 活用場面例

道徳の時間

節度ある生活について、あらかじめ書いておいた十五ページの内容を発表すること、本時の学習に対する課題意識をもつことができる。

また、十六ページの「自分の生活を振り返ってみよう」に記入すること、児童は、自分の生活習慣について改めて振り返ることができる。



P.14~15

事例

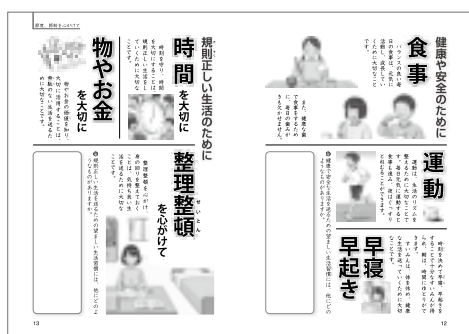
- ① 節度ある生活について、十五ページに書いた内容を発表する。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ 十六ページの「自分の生活を振り返ってみよう」に記入し、内容について意見交流する。

家庭科

家庭科の学習で自分自身の生活を振り返る学習を行う際に、十一ページを活用することができる。また、学習のまとめの段階において、十二・十三ページを活用して、自分の生活習慣を振り返り、今後の課題を見付けることができる。



P.10~11



P.12~13

特別活動（児童会活動）

児童会活動において、紙パックやペットボトル等のリサイクル運動を行う際、その回収場所に十七ページの拡大写真を掲示する。こうしたことを通して、物を大切にすることやリサイクルの意義について児童の理解を深め、取組への意欲を喚起することができる。

なお、活動については、児童の自発的、自主的な活動が効果的に展開されるように配慮することが求められる。

家庭との連携

節度ある生活のためには、学校だけでなく家庭での生活も含めて、自分の生活を見直すことが大切である。このため、家庭でも本内容項目のページを一緒に読んで、基本的な生活習慣の定着状況や気を付けたいことなどを話し合うようにする。



P.16~17

1 自分をみがいて
(2) 希望と勇気をもってくじけずに

P.18~25
1-(2)

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである自立心や自律性を育てることと関連の深い項目である。

高学年の段階は、児童が高い理想を追い求める時期だと言われる。同時に、自信がもてなかったり、夢と現実との違いを意識するようになる時期でもある。このような時期だからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、計画的に努力目標を立て、くじけずに希望と勇気をもって取り組み、その理想に向かって着実に前進していくという強い意志と実行力を育てる必要がある。

そのため、本内容項目のページにおいては、十八ページで、くじけずに努力することの大切さを問い掛けるとともに、自分が描いている夢を記入できるようにしている。十九・二十ページでは、児童が生き方に憧れをもつような人物を紹介している。二十一ページでは、「私が学びたい人物」を、自主的な読書や調べ学習などを通してまとめることができる書き込み欄が掲載されている。

また、読み物資料「ヘレンと共に―アニー・サリバン―」や重点ページ「夢に向かって確かな一歩を」の資料は、より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけずに努力することの大切さについて考えることができる。

事例

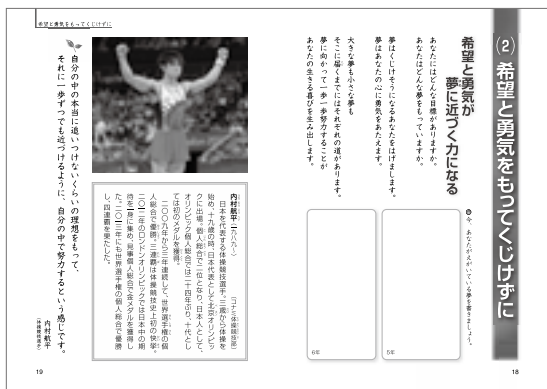
- ① 十八ページを読み、自分の夢や目標を書き込み欄に書き込んで発表する。
- ② 読み物資料「ヘレンと共に―アニー・サリバン―」を読んで話し合う。
- ③ 十九ページの内村航平選手や二十ページに掲載された人物のコメントを読んで、自分の夢や目標実現に向けての努力について考える。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容

「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」の指導に当たって、自分への気付きや自己決定を促す資料として十九・二十ページに掲載された人物の生き方を参考にすることができ。

それらの人物の生き方から、希望や目標をもって生きることの大切さに気付くことができるようにする。また、実際に、学校生活や学習についての具体的な目標を設定し、その目標を追求して、努力を積み重ね



P.18~19

より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけずに努力する。

内容となっている。

2 活用のポイント

本内容項目のページを活用して、希望をもつことの大切さやくじけずに希望と勇気をもって理想に向かって着実に前進していくという態度を育てていくようにしたい。目標に向かって努力を重ねた様々な人物のコラムなどについても、自分のことと重ね合わせて考えさせていくことが大切である。

3 活用場面例

道徳の時間

十八ページの文章を読み、書き込み欄に自分の夢を記入することで、希望と勇気をもって努力することを自分のこととして考えやすくなる。

また、アニー・サリバンについて事前に伝記を読んだり、調べたりしたことを二十一ページの書き込み欄に記入しておくことで、読み物資料「ヘレンと共に―アニー・サリバン―」を活用した道徳の学習における意欲的な話し合いが期待できる。さらにその学習後に、憧れる人物の一人について調べ、二十一ページに書き込むこともできる。

家庭との連携

学級通信等で、本内容項目についての学習の内容等を家庭に伝え、協力を依頼する。

十八から二十一ページの掲載内容や児童自身の記述内容を家の人と一緒に振り返ることで、児童は、夢に向かって努力しようとする実践意欲を一層高めることができる。

事例

- ① 十八ページの書き込み欄に記入した自分の夢を家の人を紹介する。
- ② 家の人と一緒に、十九・二十ページに掲載された人物の生き方を話し合い、自分の夢の実現に向けて努力することの大切さを話し合う。
- ③ 十九・二十ページに掲載された人物の他で、くじけず努力を続けた人について家の人から話を聞く。
- ④ 家の人に教えてもらった人物の生き方について、本やインターネットなどで調べる。



P.20~21

1 資料の特性

本資料は、目と耳と口が不自由な少女ヘレン・ケラーが、「光の天使」と呼ばれるようになるまで心を込めて尽くしたヘレンの家庭教師、アニー・サリバンの伝記である。

アニーは家庭教師として、ヘレンのわがままを直し、言葉を教えようと、希望をもつて熱心に指導する。アニーの厳しさに対する陰口にもくじけず、勇気をもって諦めずに指導を続けるアニーの姿から、強い意志を感じ取ることができる資料である。

2 指導上の留意点

高学年の段階では、高い理想を追い求めようとする一方で、自信がもてなかったり、夢と現実の違いを意識したりするようになる。そこで、希望と勇気をもつてくじけずに努力しようとする強さは、児童自身にもあるというように気付かせた上で、アニーが困難に立ち向かいヘレンを指導する姿を共感的に捉えさせ、理想に向かう強い意志と実行力を育んでいきたい。

3 展開例

【ねらい】

より高い目標に向けて、くじけず努力しようとする態度を育てる。

欄にアニーの夢や努力、アニーの生き方から学んだことを書いて発表する。

⑤ 自分の夢や目標、努力していること、くじけそうなどきどのようにして頑張っているかななどについて、グループで話し合う。

※二十六・二十七ページの「夢に向かって確かな一歩を」のイチロー選手のエピソードを紹介することもできる。

事例②

アニーや努力を重ねてきた人たちの生き方から、夢や目標を実現することについて考える展開

【主な学習】

① アニーが、諦めることなくヘレンの教育に力を尽くすことができたのは、どのような思いがあったからか。

・ 目の不自由な人たちの役に立ちたいという思いを實現したかった。

・ 目が見えないことのつらさをよく分かっているアニーだからこそ、ヘレンにそれを乗り越える力を付けてあげたいと思っていた。

② アニーの生き方からどのようなことを学んだか。

・ 夢を実現するまでには、たくさん努力が必要。途中で諦めることなく粘り強く頑張らなければならない。
・ 誰かの力になりたいという強い思いが、頑張る力になったのだと思う。

③ 二十ページの「目標に向かって努力を重ねた人たち」を読んで、掲載されている人たちの他に、生き方になれる人の夢や努力についてグループで話し合う。

事例①

アニーの生き方から、信念を貫き、努力することについて考える展開

【主な学習】

① ヘレンの家庭教師になることを決めたとき、アニーはどのようなことを考えたか。

・ 私にできるか心配だ。
・ 目の不自由な人たちのために役に立ちたいという夢を實現したい。

② アニーが「サリバン先生の教え方は、厳しすぎる。」と言われながらも根気強くヘレンを指導してきたのは、アニーにどのような思いがあったからか。

・ 家庭教師としてヘレンのために頑張ろうと決めたのだから、途中で諦めたくない。
・ ヘレンもみんなもいつか分かってくれる。ヘレンのためだ。ここでやめてはならない。

はならない。

③ ヘレンがWATERという

言葉の意味を理解したとき、アニーはどのように思ったか。

・ 今まで頑張ってきたよかったです。

・ ここまでやってきたことは間違っていないかったです。

④ 二十一ページの書き込み



一 の視点 重点ページ

夢に向かって確かな一歩を

1 このページの特徴

大きな夢の実現には、小さな目標を一つ一つクリアして達成感を得ることの繰り返しが必要というイチロー選手の考えは、児童にとって大いに参考になり、自分との関わりで考えることができる。

P.26～27

2 活用事例

道徳の時間

中心的な資料として活用することができる。

事例

① イチロー選手について知っていることを話し合う。

② 「夢に向かって確かな一歩を」を読んで話し合う。
○ イチロー選手について、すごいと思うことや見習いたいと思うことは、どのようなことか。

○ イチロー選手が夢をかなえることができたのは、どうしてだと思うか。

③ 自分の夢や目標、それに向けての努力などについて話し合う。

※道徳の時間に学習したことを家庭で家の人に伝え、夢や目標、それに向けての努力などについて、家の人と一緒に話し合うこともできる。

1 自分をみがいて (3) 自律的で責任ある行動を

P.28~37
1-(3)

1 この内容項目のページの特徴

自己を高めていくためには、自由な考えや行動が大切である。しかし、自由と放縦とは区別されなければならない。

高学年の段階では、自主的に考え、行動しようとする傾向が強まるが、一方で、自由の捉え違いをして自分勝手な振る舞いをしてしまうことも少なくない。そのため、本内容項目においては、自由について考えることができるような文章やイラスト、書き込み欄を二十八から三十一ページに設け、三十二・三十三ページには、自分を律することや責任をもつことについて考え、話し合えるページを設けている。

三十四ページからは、読み物資料「うばわれた自由」が掲載されており、自由を大切にするとともに、自律的で責任のある行動をすることについて深く考えることができるようになっていく。

2 活用のポイント

自由には規律が伴っているということについての理解の度合いは児童によって異なっている。したがって、自由についての児童の意識を日常の様子などから把握しておくことも考えられる。

また、このページの活用に当たっては、話し合い活動などを効果的に取り入れ、自由のよさや規律の必要性などについて、実際の生活場面を想起しながら深く考えさせていくようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

あらかじめ、二十九ページの書き込み欄に自由に対するイメージを記入しておくことで、読み物資料を活用した話し合いに積極的に取り組むことができる。



P.28~29

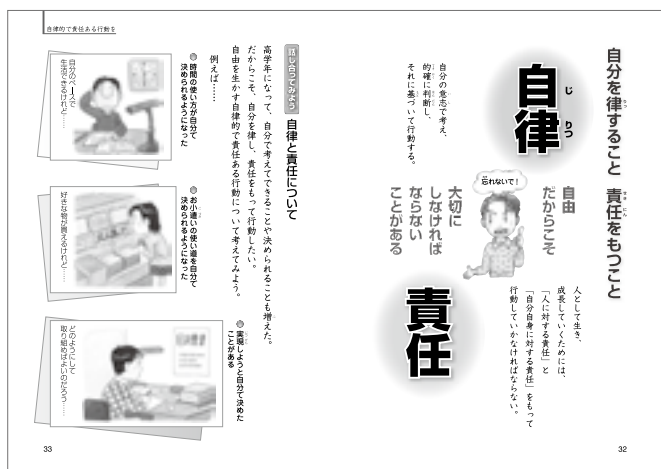
自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。

事例

- ①二十八ページを読み、二十九ページの書き込み欄に自由に対する自分の考えを記入する。
- ②読み物資料「うばわれた自由」を読んで話し合う。
- ③書き込み欄に書いたことを基に、自由とはどのようなことなのかについて話し合う。
- ④学習を振り返り、三十一ページの書き込み欄に自由だからこそ気を付けなければならないことを記入する。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(1) 学級や学校の生活づくり」の「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」及び「イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理」の事前指導に当たって、「人に対する責任」と「自分自身に対する責任」について考える際に、三十二ページを活用することができる。



P.32~33

事例

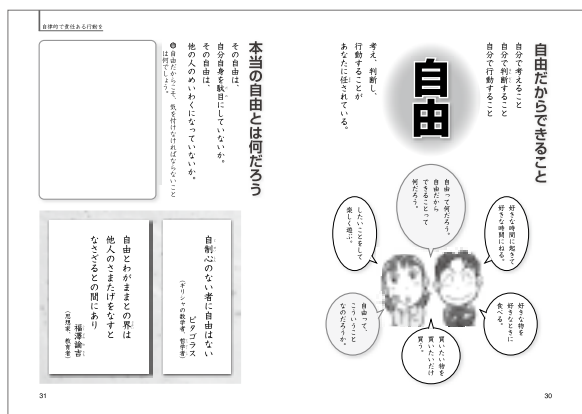
- ①学級会の事前指導として、自分たちが自主的に取り組んできた活動の成果と課題について話し合う。
- ②三十二ページを読んで、「人に対する責任」と「自分自身に対する責任」とはどのようなことなのかを発表する。
- ③よりよい学級生活をつくっていくことの大切さについて理解する。

家庭との連携

三十一ページのピタゴラスと福澤諭吉の言葉について家庭で家の人と話し合い、自律的で責任ある行動を実践しようとする児童の意欲を高めるようにする。

日常生活

日常生活の中には、自分に任されている自由なことがたくさんある。三十三ページのイラストを活用し、児童が自分の生活を振り返って、自分を律し、責任ある行動をとることができるように随時指導するようにしたい。



P.30~31

1 資料の特性

本資料は、大きく二つの場面で構成されている。一つは、自分の思いのままに行動することが自由であると思っているジェラルルに、森の番人ガリユーがその考えの誤りを諭すが、ジェラルルは全く聞き入れず、ガリユーを牢に入れてしまうという場面。もう一つは、その後、ジェラルル自身が、国内の乱れが元で囚われの身となり、改めて本当の自由の大切さについて考えるという場面である。

ジェラルルとガリユーのやり取りを通して、自分の生活を振り返って、自由の大切さと規律ある行動の意義について考えることのできる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、自由についての児童の考えを、二十九ページの書き込み欄を活用して整理、分類し、より多様な価値観を引き出すように意図的な指導を行いたい。

また、自分の生活を振り返る場面では、本当の自由とは何かについて、一人一人が自分の経験を基に考え、自覚したことを今後の生活に生かしていくことができるよう、実践のための意欲を高めていきたい。

3 展開例

【ねらい】

自由を大切にし、規律ある行動をしようとする態度を育てる。

事例①

ジェラルルの思いを通して、自由を大切にすることについて考える展開

【主な学習】

①二十九ページの書き込み欄に自分が考える自由について記入し、発表する。

・自分のやりたいことを何でもできること。
・何もしないで楽をすること。

②ガリユーに忠告されたとき、ジェラルルはどのようなことを思ったか。

・うるさいやつだ。

・王子に対してなんて無礼なやつだ。

・王子だから、何をしてもいいのだ。

③「お前の言葉を受け入れ、わがままな心を正すことができたなら……」と言って、涙を流したジェラルルは、どのようなことを思っていたか。

・自分勝手に振る舞うことが自由ではないのだ。

・自由をはき違えてしまったために、国が乱れ、自由を奪われてしまった。

・お前の言う本当の自由に早く気付くべきだった。

④自由だからこそ気を付けなければならないことはどのようなことを三十一ページの書き込み欄に記入し、

発表する。

・他の人に迷惑を掛けないこと。

・自分の役割をきちんと果たすこと。

・いろいろ考えて判断し、行動すること。

事例②

ジェラルルとガリユーの対比を通して、本当の自由について考える展開

【主な学習】

①きまりを破って狩りをし、ガリユーの言うことを聞かないジェラルルはどのような人だと思いか。

・自分勝手な王子だ。

・ジェラルルは王子だから何をしても許されると思っている。

・きっと自分の言うことを聞く人しか付き合わない人だと思ふ。

②罰せられることを覚悟しながらも、ジェラルルに忠告するガリユーはどのような人だと思いか。

・自分の仕事に対する責任感の強い人だと思ふ。

・権力のある王子に逆らうなんて、勇気がある。

・この国のことをとても大切に思っている。

③牢屋で再会したジェラルルとガリユーはどのようなことを思っていたか。

(ジェラルル)

・自分のわがままを注意してくれたガリユーを牢屋に入れて悪かった。



・ガリユーの言うことは正しかった。わがまま勝手な行動をした罰だ。
(ガリユー)

・自分勝手な自由ではなく本当の自由について考え、ジェラルルに再起してほしい。

・本当の自由とは何か、自分で考え、気付いてほしい。

④本当の自由とはどのようなことだと思いか。

・自分勝手にすることやわがままに振る舞うことではない。

・人に迷惑をかけない範囲で、自由に振る舞うこと。

・人の自由を妨げないように自由にすること。

・本当の自由は、他の人のことも自分のことも考えた上で自由にすること。

1 自分をみがいて
(4) 誠実に明るいい心で

P.38~41
1-(4)

1 この内容項目のページの特徴

明るいい心で楽しく生活するためには、自分の良心に真っすぐ向き合い、誠実に行動していくことが大切である。しかし、高学年の段階では、周りの雰囲気や流され、自分の気持ちと相反する行動をしてしまったり、その場しのぎのごまかしをしてしまったりすることがある。そのため、本内容項目においては、良心とは何か、誠実とは何かということについて考えることができるような問い掛けや、先人の言葉を設けている。また、生活での失敗の場面を提示し、問題の解決策について考えさせ、た上で、偽りのない誠実な心をもつためにはどのようにすればよいか、書き込み欄を活用しながら考え、話し合えるページも設けている。これらのページを活用して、誠実に明るいい心で楽しく生活しようとする意欲を高めていくことができる。

2 活用のポイント

誰の心の中にも、誠実な気持ちとそれに相反する気持ちが存在することを理解させた上で、なぜうそをついたりごまかしたりしてしまうのか、また、なぜ過ちを素直に反省し改めようとするのが大切なのか、心を強くするためににはどのようにすればよいのかなどについて話し

合うようにする。そうした話し合いを通して自己を見つめ、誠実に、明るいい心で楽しく生活しようとする態度を育んでいくようにしたい。

3 活用場面例
道徳の時間

三十八ページ
の文章を読み、自分の良心の声について考える。また、学習のまとめとして、四十一ページの書き込み欄に偽りのない誠実な心をもつことについて、自分の考えを記入することも効果的である。

P.38~39

事例

- ① 三十八ページの文章を読み、感想を発表する。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ 学習を振り返り、四十一ページの書き込み欄に偽りのない誠実な心をもつことについて記入し、自分の経験を基に、誠実に行動するためにはどのようにすればよいのか発表する。

■特別活動（学級活動・児童会活動）

学級活動や児童会活動では、よりよい集団をつくるた

めに児童の自発的、自治的な活動が効果的に展開されることが求められている。問題や課題を解決するとき、怠けたくなる気持ちやごまかし、たくなる気持ちを乗り越えて前向きに誠実な気持ちで取り組んでいくことの大切さを確認できるようにする。その際、折に触れ、三十八・四十

P.40~41

■日常生活

高学年の段階においては、真面目で誠実な行動が増える一方で、過ちや失敗を犯してしまったり、ついその場しのぎのうそをつこうとしたり、ごまかそうとしたりする様子もしばしば見られる。折に触れて、四十ページの文章を読み、今の生活を振り返りながら、自分の行動を確認していくようにしたい。また、四十一ページの書き込み欄に自分の考えを記入することで、良心を大切にし、自分の心の中にある誠実で真面目な気持ちに従って行動することができるよう、継続的に指導していきたい。

誠実に、明るいい心で楽しく生活する。

ページを活用して、自分自身の行動を振り返って考えられるようにする。

■家庭との連携

学級通信等で本内容項目についての道徳の学習の様子を家庭に伝え、協力を依頼する。

授業の後、改めて家の人と一緒に、三十九ページの「誠」の意味を考えたり、吉田松陰と夏目漱石の言葉について話し合ったりすることで、誠実に関わる児童の理解が一層深まり、実践意欲へとつなげていくことができる。